

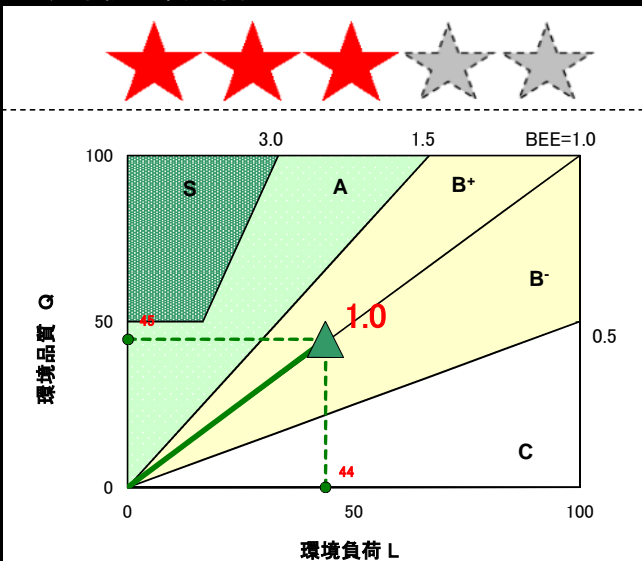
# CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要		■ 外観	
建物名称	(仮称)荒尾市・長洲町学校給食センター	階数	地上2F
建設地	熊本県荒尾市増永上の甲1900-1、1	構造	S造
用途地域	準工業地域、法第22条区域	平均居住人員	75人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,960時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年11月 予定	評価の実施日	2021年3月15日
敷地面積	7,610㎡	作成者	㈱あい設計九州支社
建築面積	2,623㎡	確認日	2021年3月16日
延床面積	3,387㎡	確認者	㈱あい設計九州支社



## 1 CASBEE評価結果

### ■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



BEE = 1.0

$$\text{BEE(環境効率)} = \frac{Q(\text{環境品質})}{L(\text{環境負荷})}$$

#### ■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

#### ■ ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

### ■ ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出性能(ランク表示)



### 排出率

94%

## 2 熊本県重点評価結果

### ■ 重点事項総合評価



### 評価点

82

### 評価点

- 【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進
- 【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現
- 【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全
- 【重点事項4】 循環型社会の実現

84.2
75.0
70.0
97.5

### ■ 熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★
80点以上100点未満	★★★★
60点以上80点未満	★★★
40点以上60点未満	★★
40点未満	★

※評価点は、100点以上が推奨です。

# CASBEE®-建築(新築)

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)荒尾市・長洲町学校給食センター	階数	地上2F
建設地	熊本県荒尾市増永上の甲1900-1、	構造	S造
用途地域	準工業地域、法第22条区域	平均居住人員	75人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,960時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年11月 予定	評価の実施日	2021年3月15日
敷地面積	7,610㎡	作成者	㈱あい設計九州支社
建築面積	2,623㎡	確認日	2021年3月16日
延床面積	3,387㎡	確認者	㈱あい設計九州支社



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0** ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.7**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.7

**LR のスコア = 3.2**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.8

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.8

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

### 3 設計上の配慮事項

#### 重点事項総合評価

評価点 = 82

重点事項1: 温室効果ガス排出削減の推進 評価点 = 84.2	重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 評価点 = 75.0
重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 評価点 = 70.0	重点事項4: 循環型社会の実現 評価点 = 97.5

#### 重点事項の評価(レーダーチャート)

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

# CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

## 4 設計上の配慮事項

### 総合

- ・室内環境、サービス性能への配慮
- ・敷地外環境への配慮を行う
- ・エネルギー、資源マテリアルの確保に努めている

### Q1 室内環境

・1階事務室8.60%・トップライト設置・事務室照度500lx以上・内装材に使用する材料はF☆☆☆☆とする・建築基準法を満たす換気量の1.4倍以上・自然換気有効開口面積が居室床面積の1/15以上・全館禁煙としている

### Q2 サービス性能

・事務室天井高2.70m、窓設置・地域係数0.8に対し重要度係数1.25・床:ビニル床シート20年、壁:せっこうボード30年、天井:せっこうボード30年・給排水配管は上位3種がB以上、Eは不使用・設備機器耐震Aクラス・基準階階高4.50m・壁長さ比率0.12

### Q3 室外環境（敷地内）

- ・特になし

### LR1 エネルギー

- ・BPI<sub>m</sub>=0.63
- ・トップライト設置

### LR2 資源・マテリアル

・自動水栓に加え、節水型便器の採用・リサイクル材を活用している・LGS下地、OAフロア採用・有害物質を含まない防水工事のプライマー採用・押出法ホリスチンフォーム断熱材採用

### LR3 敷地外環境

- ・LCCO<sub>2</sub>排出率94%等で、地球温暖化に配慮
- ・チェックリストの一部を満たす、広告物照明無し等、光害の抑制に配慮

### その他

# 熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

**建物名称** (仮称)荒尾市・長洲町学校給食センター新築工事

■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点	82	
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)	スコア	重み 係数				
<b>① 温室効果ガス排出量削減の推進</b>				84.2	0.40	33.68
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	4.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	3.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	5.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	4.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	2.4	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
<b>② 安全安心で暮らしやすい社会の実現</b>				75	0.20	15.00
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	5.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
<b>③ 県の地域資源の有効活用と保全</b>				70	0.20	14.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	2.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
<b>④ 循環型社会の実現</b>				97.5	0.20	19.50
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.6	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15			

### ■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

#### ◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和  
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

#### ◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20  
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
**(仮称)荒尾市・長洲町学校給食センター新築工事**

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>2.7</b>
<b>Q1 室内環境</b>					<b>0.33</b>		-		<b>3.3</b>
<b>1 音環境</b>				<b>2.6</b>	0.15				<b>2.6</b>
1.1 室内騒音レベル				<b>3.0</b>	0.40				
1.2 遮音				<b>3.0</b>	0.40				
1 開口部遮音性能				<b>3.0</b>	0.60				
2 界壁遮音性能				<b>3.0</b>	0.40				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-				
1.3 吸音				<b>1.0</b>	0.20				
<b>2 温熱環境</b>				<b>3.0</b>	0.35				<b>3.0</b>
2.1 室温制御				<b>3.0</b>	0.50				
1 室温				<b>3.0</b>	0.38				
2 外皮性能				<b>3.0</b>	0.25				
3 ゾーン別制御性				<b>3.0</b>	0.38				
2.2 湿度制御				<b>3.0</b>	0.20				
2.3 空調方式				<b>3.0</b>	0.30				
<b>3 光・視環境</b>				<b>3.6</b>	0.25				<b>3.6</b>
3.1 昼光利用				<b>4.6</b>	0.30				
1 昼光率		1階事務室8.60%		<b>5.0</b>	0.60				
2 方位別開口					-				
3 昼光利用設備		トップライト設置		<b>4.0</b>	0.40				
3.2 グレア対策				<b>3.0</b>	0.30				
1 昼光制御				<b>3.0</b>	1.00				
3.3 照度		事務室照度500lx以上		<b>4.0</b>	0.15				
3.4 照明制御				<b>3.0</b>	0.25				
<b>4 空気質環境</b>				<b>4.2</b>	0.25				<b>4.2</b>
4.1 発生源対策				<b>4.0</b>	0.50				
1 化学汚染物質		内装材に使用する材料はF☆☆☆☆とする		<b>4.0</b>	1.00				
4.2 換気				<b>4.0</b>	0.30				
1 換気量		建築基準法を満たす換気量の1.4倍以上		<b>5.0</b>	0.33				
2 自然換気性能		自然換気有効開口面積が居室床面積の1/15以上		<b>4.0</b>	0.33				
3 取り入れ外気への配慮				<b>3.0</b>	0.33				
4.3 運用管理				<b>5.0</b>	0.20				
1 CO <sub>2</sub> の監視					-				
2 喫煙の制御		全館禁煙としている		<b>5.0</b>	1.00				
<b>Q2 サービス性能</b>					<b>0.30</b>				<b>3.4</b>
<b>1 機能性</b>				<b>3.0</b>	0.40				<b>3.0</b>
1.1 機能性・使いやすさ				<b>3.0</b>	0.40				
1 広さ・収納性				<b>3.0</b>	0.33				
2 高度情報通信設備対応				<b>3.0</b>	0.33				
3 バリアフリー計画				<b>3.0</b>	0.33				
1.2 心理性・快適性				<b>3.0</b>	0.30				
1 広さ感・景観		事務室天井高2.70m、窓設置		<b>4.0</b>	0.33				
2 リフレッシュスペース				<b>2.0</b>	0.33				
3 内装計画				<b>3.0</b>	0.33				
1.3 維持管理				<b>3.0</b>	0.30				
1 維持管理に配慮した設計				<b>3.0</b>	0.50				
2 維持管理用機能の確保				<b>3.0</b>	0.50				
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>4.0</b>	0.30				<b>4.0</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振				<b>4.6</b>	0.50				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		地域係数0.8に対し重要度係数1.25		<b>5.0</b>	0.80				
2 免震・制震・制振性能				<b>3.0</b>	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>3.6</b>	0.30				
1 躯体材料の耐用年数				<b>3.0</b>	0.20				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				<b>3.0</b>	0.20				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		床:ビニル床シート20年、壁:せっこうボード30年、天井:せっこうボード30年		<b>5.0</b>	0.10				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				<b>3.0</b>	0.10				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		上位3種がB以上、Eは不使用		<b>5.0</b>	0.20				
6 主要設備機器の更新必要間隔				<b>3.0</b>	0.20				
2.4 信頼性				<b>3.2</b>	0.20				
1 空調・換気設備				<b>3.0</b>	0.20				
2 給排水・衛生設備				<b>3.0</b>	0.20				
3 電気設備				<b>3.0</b>	0.20				
4 機械・配管支持方法		耐震Aクラス		<b>4.0</b>	0.20				
5 通信・情報設備				<b>3.0</b>	0.20				

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.4</b>	0.30		-	<b>3.4</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>4.6</b>	0.30		-	
1	階高のゆとり	基準階階高4.50m	5.0	0.60		-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.12	4.0	0.40		-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30		-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20		-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.37		-	<b>1.7</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>1.0</b>	0.30		-	<b>1.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>2.0</b>	0.40		-	<b>2.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.0</b>	0.30		-	<b>2.0</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50		-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>							<b>3.2</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40		-	<b>2.8</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>			BPI <sub>m</sub> =0.63	5.0	0.06		5.0
<b>2 自然エネルギー利用</b>			トップライト設置	4.0	0.12		4.0
<b>3 設備システムの高効率化</b>			[BEI][BEI <sub>m</sub> ] = 0.91	2.4	0.59		2.4
<b>4 効率的運用</b>				3.0	0.24		3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00		
4.1	モニタリング		3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50		-	
集合住宅の評価							
4.1	モニタリング					-	
4.2	運用管理体制					-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30		-	<b>3.8</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20		-	<b>3.4</b>
1.1 節水			自動水栓に加え、節水型便器の採用	4.0	0.40		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60		
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30		-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>4.1</b>	0.60		-	<b>4.1</b>
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.10		
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.20		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			高炉セメントB種(基礎、基礎梁、ピットスラブ)	5.0	0.20		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			ビニル床シート(床材)、ビニル床タイル(床材)、再生クッション(路盤材)	5.0	0.20		
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.10		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			LGS下地、OAフロア採用	5.0	0.20		
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.6</b>	0.20		-	<b>3.6</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用			有害物質を含まない防水工事のプライマー採用	4.0	0.30		
3.2 フロン・ハロンの回避				3.5	0.70		
1	消火剤					-	
2	発泡剤(断熱材等)	押出法ポリスチレンフォーム断熱材採用	4.0	0.50		-	
3	冷媒		3.0	0.50		-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30		-	<b>3.1</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>			LCCO <sub>2</sub> 排出率=94%	3.2	0.33		3.2
<b>2 地域環境への配慮</b>				3.0	0.33		3.0
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25		
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50		
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25		
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>				3.1	0.33		3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40		
1	騒音		3.0	1.00		-	
2	振動					-	
3	悪臭					-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				3.0	0.40		
1	風害の抑制		3.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制					-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制				3.7	0.20		
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	チェックリストの一部を満たす、広告物照明無し	4.0	0.70		-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	